

●特集● 夢に向かって輝け！多久の若い力

桶口 クライミング さん & 武富 の さん 世界の舞台で活躍を！



ガンバレ！
たけどみ あきまさ
武富 章剛 さん
(中央中1年・北多久町)

中央中1年の武富章剛さんが、日本代表として出場するのは、8月14～22日にアメリカ（メリーランド州）で開かれる『カル・リブケン12歳以下世界少年野球大会』。この大会は、アメリカ大リーグで2632試合連続出場の世界記録を樹立した元メジャーリーガーのカル・リブケン・ジュニアが少年野球の発展を目的に2000年から始めたもので、日本代表の出場は4回目。カナダ、ドミニカ、韓国など6か国の代表チームとアメリカの10チームが世界一を競うものです。

僕でいいのかな…

章剛さんは現在、小城市の硬式野球チーム・黄城ボーイズ中学部に所属する野手で、走・攻・守が揃い、投手としての能力も高い選手。今年3月、小学部で出場した日本少年野球全国春季大会（東京）で、飛びぬけた素質が日本少年野球連盟（ボーイズリーグ）選考委員の目に止まり、レベルの高い23選手が臨んだ2次選考会（大阪）を経て、代表入りしました。国際大会で勝つチームづくりに向けた2日間のセレクションでは、プレーはもちろん、協調性や社会性なども重視。全国から選ばれた15人の1人で、九州からは唯一人、県内からは歴代2人目という快挙に本人は、「知らせを聞いて、僕でいいのかなと思った」と嬉しさの中にも驚きが大きかったようです。

走攻守揃ったいい選手

章剛さんが野球を始めたのは小学4年になってから。プロ野球選手に憧れ、地元の北部少年野球チーム（軟式）に入部し、野球の楽しさに出会います。小学6年の12月、「高校もプロ野球も硬式だから、早めに挑戦したい」と、黄城ボーイズに入団。小中学生一緒に練習スタイルの中で、体力づくりと心身を鍛錬しながら、技術に磨きをかけています。

指導する坂下幹夫監督は「走攻守揃ったいい選手で、無駄口がなく、黙々とメニューをこなし、自分の課題を克服しようとする取り組み姿勢もいい。全国大会では1回戦で敗れたものの、全てのプレーで光っていたし、その予選だった地区大会2試合では、全打席、全部ヒットです。中学になって数か月ですが、実力で3年生に交じってレギュラーを確保し、左バッターでライト方向へも大きな当たりが飛ぶように成長。先日の練習試合では、ホームランを打ち、スタンドに入れる1年生は初めて見ました。ピッチャーとしても中学生離れた速球やコントロールのいい変化球も投げます」と話し、優れた能力と成長ぶりを紹介。チームは、監督が主宰するジムで筋力やボディバランスを高め、土・日はグラウンドで練習に励む中、チームメイトとともに行動がテキパキで、朝は自分で起床する、練習着やユニフォームなどは自分で洗濯など生活習慣にも、スポーツマンの精神が及びます。

憧れはマリナーズのイチロー選手

7月末から8月初旬に大阪での強化合宿を前に、章剛さんは「日本代表として恥ずかしくないよう、ピッチャーとしても、バッターとしても、自分のやれることを十分発揮したい」と、さわやかな笑顔で抱負を語り、「憧れはマリナーズのイチロー選手。プロ野球選手になって、年間200本安打を打ちたい」と、大きな夢に向かって前進していました。



■左投げ、左打ちの章剛さんは、身長167cm、体重61kgと恵まれた体格からの速球に、打撃や盗塁も武器。星野仙一さんも同行する国際大会を楽しみにしています

坂下監督メッセージ

長く野球を続けるには、取り組み姿勢が大事。これにおごれることなく、どんどん上を目指せば、将来も有望でしょう。世界大会は貴重な経験なので、自分自身に磨きをかけて、感じたものを友達や先輩に伝えてくれたら嬉しい。
(厳しき中にも、伸び伸び野球で楽しさへと導く坂下監督も北多久町出身でした)

